



# 東 京 各 種 新 聞

○十月十日の午後三時を以て富沢町南新道火除地の  
 貸藏一玉置屋に疎人宿へ荷物を付てきて馬を  
 門端へ繋ぎあて馬士に用達し一行つて折々  
 子供の悪遊ひに石を投ると  
 馬へあてると土藏を漆つて  
 大下水へ伴綱のられてトサくと落つ



音近所の手馬  
 其混雑は馬士  
 あらうの種々  
 を探して引あけやうとし  
 りれど五時過ぎまでかゝるも揚らば  
 呆と切てあめてわらうと  
 こと通れりつ

▲お早  
 くとつて  
 辻占と賣  
 男馬の手  
 りと鈴で  
 かくとる  
 たる夫と遊  
 馬を飛あろ  
 ろく氣轉のまの  
 次男信助(廿六)とつ奴は九月十九日の晚  
 の雇人伊豫國今治町廣瀬志平の

初會の客で軍艦の士官たう  
 白濱まの山と二人遊具の最中白濱  
 某の懐中物に紛失しとて当人  
 から届とるまで神風  
 ても其筋(わび)出に  
 ろりか調(わび)出に  
 左様な事ハ無と廿五日  
 のひ立ち廿日小信助(廿六)が  
 東京の原(まて)園(か)つあつて見送の

なめ暇どらつて出さるに空で全く金百八円と  
 金無垢の龍の目貫小指輪その外金金の品を  
 そつろ盗す(へ)立出昨日までの中とんが  
 今日(か)客の大(ま)さうて深川黒江町の貸生  
 秋河内屋昇三郎方(登)榎(ら)一(飲)や  
 の有頂天堀坂雲井(を)遺妓  
 日(も)運(あ)つ(け)の  
 朝(の)兩(五)つ  
 ぬれ(と)相(わ)れ  
 雲井(の)心  
 ふう(の)空



末(め)め(と)約(束)東(よ)ひ(ま)て(切)て(り)かり  
 起(き)登(と)書(き)神(か)け(て)浮(う)き(あ)と(ん)で(居)る(か)  
 金(か)つ(い)の(あ)の(の)て(其)筋(ら)り(や)ま(れ)召(し)捕(ま)て  
 た(と)これ(と)高(た)島(し)町(の)一(件)と(の)こ(と)白(は)杖(さ)せ  
 ま(ら)な(ら)雲(く)み(の)被(か)け(あ)つ(り)に(あ)る(ま)で(も)あ(つ)つ(て)の  
 品(し)ん(と)大(お)切(り)て(手)り(と)わ(ら)ぬ(ま)の(ま)わ(り)で(直)か(ま)れ  
 ま(ら)ん(す)な(ら)う(と)す(つ)て(わ)ら(ぬ)ま(の)ま(わ)り(と)さ(さ)り(さ)

三枚價六銭



應  
 徳  
 皇  
 天  
 皇  
 萬  
 歲  
 無  
 疆  
 萬  
 古  
 無  
 疆

ホリヤ  
 本  
 店  
 新  
 橋  
 日  
 本  
 橋  
 二  
 筋  
 八  
 十  
 八  
 番  
 九  
 番  
 目  
 五  
 郎

